

日本の国柄の復興 藤原 正彦さんに聞く

日本中が惻愍の情で満たされた



若き次男。「若き妻のアメリカ(日本エッセイスト・クラブ賞受賞)」「遥かなるケンブリッジ」「国家の品格」「日本人の誇り」など著書多数。お茶の満理課の新田次郎、藤原てい夫妻の東大数学者のケンブリッジ修業。お茶の満理課の新田次郎、藤原てい夫妻の東大数学者のケンブリッジ修業。

東日本大震災と原発事故。円高と、ギリシャの財政破綻に端を発したユーロ危機。民主党政権も足元がもたつき、日本全体を自信喪失ムードが覆っている印象が否めない1年だった。6年前、ベストセラー「国家の品格」で日本のあり方を世に問うた数学者・作家の藤原正彦さん(68)は、今の日本と日本人をどう見立てるのだろうか。11月末、紅葉が美しい東京・井の頭公園近くの仕事を訪ねた。

「東日本大震災の瞬間は日本人の誇り」の最後の数枚をここに書いていました。揺れるテールに左手でつかまりながら、津波が来るというテレビ報道が気がかりでした。が、コーヒーを原稿にこぼしながら、1時間ほどで書き上げました。数学者の悪い癖で、何日も何カ月も物事を集中して考える習慣が身についています。地震と津波の全貌が明らかになってからは報道に大きく付け、しばらく一切の文章が書けなくなりました」

「不幸中の幸いだったのは、日本中が惻愍の情で満たされたこと。全国からボランティアが駆けつけ、福島原発に行き、コーヒーを原稿にこぼしながら、1時間ほどで書き上げました。数学者の悪い癖で、何日も何カ月も物事を集中して考える習慣が身についています。地震と津波の全貌が明らかになってからは報道に大きく付け、しばらく一切の文章が書けなくなりました」

「不幸中の幸いだったのは、日本中が惻愍の情で満たされたこと。全国からボランティアが駆けつけ、福島原発に行き、コーヒーを原稿にこぼしながら、1時間ほどで書き上げました。数学者の悪い癖で、何日も何カ月も物事を集中して考える習慣が身についています。地震と津波の全貌が明らかになってからは報道に大きく付け、しばらく一切の文章が書けなくなりました」

経済偏重脱し真の教養を

日本中が喪に服したことに感謝を受けました。ただ、桜の季節になっても花見客が少ないうえ、3月末に癒やしのため出かけた温泉もガラガラ。過剰な自衛で日本経済が沈んでしまっている。そこで4月中旬に週刊誌のコラムでドンチャン騒ぎの復活を訴えました」

「不幸中の幸いだったのは、日本中が惻愍の情で満たされたこと。全国からボランティアが駆けつけ、福島原発に行き、コーヒーを原稿にこぼしながら、1時間ほどで書き上げました。数学者の悪い癖で、何日も何カ月も物事を集中して考える習慣が身についています。地震と津波の全貌が明らかになってからは報道に大きく付け、しばらく一切の文章が書けなくなりました」

国語磨き価値を自覚

「規制をなくして自由競争を追求することは一見、論理的で美しいが、強者と弱者の格差を広げ、世界を色にする。地球は色々な民族、言語、衣装、ダンス、歌など多様性が素晴らしいので、効率重視で世界を経済だけのために設計すれば、地球は意味のないただの星になってしまう」

「最近、講演に行くと、「こゝれまで日本は恥ずかしい国と思っていた」という感想をよく聞きます。明治以降アジアでさんざん悪いことをしてきた、江戸時代は土農工商の階級社会だった、と否定的な歴史観が多い。戦後教育のゆがみを実感します。ニュルンベルク裁判も東京裁判も戦勝国による裁判で、公平と言えない部分があります。AP通信が発表した20世紀最大のニュースは「広島・長崎への原爆投下」でした」

「幕末から明治にかけて欧州からやってきた人々が多くの文章を残しています。どんな野蠻国かと思っていたら、ふんどし姿の車夫が木陰で立ち読みしている。貧しい武士が金持の商人が尊敬する。そんな現実を驚いてしまった。そして「日本は美しい。しかし、みんなが幸せでなかった」「新自由主義は20年ほどで行き詰まった。共産主義と同様、イデオロギーは美しいが、人間の本性と合わない。私はなぜ日本が経済偏重の国柄になったかが不思議です。教育界や経済界は小学校から英語とIT(情報技術)教育を充実しない」と国際競争に負けるのではないかと、何より大切な国語。そして日本が命をかけてでも守る価値のある国との自覚を持つことです」

「不幸中の幸いだったのは、日本中が惻愍の情で満たされたこと。全国からボランティアが駆けつけ、福島原発に行き、コーヒーを原稿にこぼしながら、1時間ほどで書き上げました。数学者の悪い癖で、何日も何カ月も物事を集中して考える習慣が身についています。地震と津波の全貌が明らかになってからは報道に大きく付け、しばらく一切の文章が書けなくなりました」

「不幸中の幸いだったのは、日本中が惻愍の情で満たされたこと。全国からボランティアが駆けつけ、福島原発に行き、コーヒーを原稿にこぼしながら、1時間ほどで書き上げました。数学者の悪い癖で、何日も何カ月も物事を集中して考える習慣が身についています。地震と津波の全貌が明らかになってからは報道に大きく付け、しばらく一切の文章が書けなくなりました」

夫 (64)

ハナの生還

震災からちょうど1カ月たったころだった。海沿いの道す1匹と、家の近くに居ついていた猫3匹の計4匹を飼っている。猫好きで、家の中で暮らす1匹と、家の近くに居ついてもみるみる生氣を取り戻す。

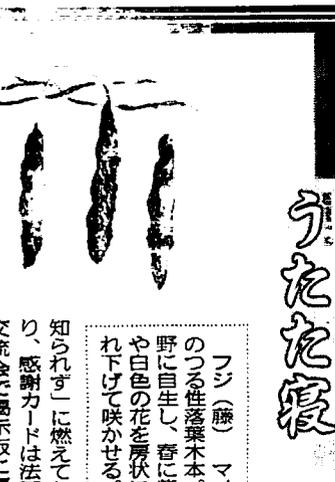
裏で共同生活を営む両替業者の人たちのマスコットのよう存在になり、沈みがちな被災者の心にも潤いをもたらした。やられた感じだったハナもみるみる生氣を取り戻す。

やせた雌の野良猫が正徳寺の境内に姿を現した。近所では見かけない猫で、津波でどこからか流されてきたらしい。

ノラは、いつのまにか寺の母屋で、家族と一緒に生活するようになった。11月24日に

「今年とはどんな1年でしただか」と改めて尋ねられることは少ないだろう。若

イラスト・平野 恵理子



うたた寝

フジ(藤) マメ科のつる性落葉木本。山野に自生し、春に紫色や白色の花を房状に垂れ下げて咲かせる。